

**実践事例**

**1 小平市立小平第六小学校**

推進校は、飼育動物が死亡した際に、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理等について支援を受けています。



**1 小平市立小平第六小学校**

**【実践の概要】**

「モルなが」は、5歳4か月の雄のモルモットであった。数年前に飼育を始めた3匹のモルモットの中では一番体が大きく、他のモルモットを押し退けて水やえさを食べていた。いつも激しく動き回り、掃除の時は手が掛かった。しかし、だっこされるとじっとして、とても可愛いモルモットだった。



「モルなが」とのお別れの会の様子

平成26年12月に、病院に入院し、歯を切る手術をした。食欲が落ちてきているのを心配して、学校担当獣医師に診断を受けた結果、歯が横に伸びているのが原因だと分かったためである。

その後は食欲もあり元気に過ごしていた。しかし、平成27年9月25日に静かに眠るように逝った。第2学年の生活科「動物となかよし」の授業で直接触れ合っていたので、児童にとっては悲しい別れであるとともに、命を身近に感じた出来事となった。

**【学校担当獣医師との連携】**

学校担当獣医師には、来校するたびにモルモットの様子を見てもらい、食欲が落ちたときには回復に必要な治療をしてもらったりエサの工夫について児童に助言をしてもらったりした。手術後には特に丁寧な助言を受け、児童は飼育の仕方にも気を付けることができた。

**【児童の反応】**

- 児童朝会で「モルなが」の死を聞いた児童の中には、目に涙を浮かべる姿が見られた。その後一緒に埋葬してほしいと、多くの手紙が届いた。
- お別れ会に参加した飼育委員の児童は、「モルなが」に声を掛けていた。お別れ会の後も、多くの児童が手紙を書いたりお別れに来たりしていた。
- 「動物となかよし」で直接触れ合った第2学年の児童も「モルなが」のところへお別れを言いに来た。
- 昨年度のウサギの「グレ」の死と今年度の「モルなが」の死は、児童の心に深く残った。命について考える貴重な機会になった。

